



大阪はびきの医療センター 第58号 令和3年

地域医療連携室だより

2月

2月も半ばを過ぎ、春の足音が間近に感じられるこのごろ、皆様におかれましてはますますご発展のこととお慶び申し上げます

この年末年始より緊急事態宣言も発出される中、コロナ入院患者様の受け入れはもとより、一般診療においても、できるだけ迅速に受け入れをさせていただくよう努めております。地域医療機関の皆様にはご迷惑をおかけすることも多くありましたが、多大なご理解とご協力、また温かい励ましの言葉を頂戴し、地域医療連携室一同深く感謝しております。

これからも、まだまだ先の見えないコロナ禍ではありますが、地域の医療機関様へお役に立てる情報の発信、連携向上に努めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

第5回 はびきのチャンネルのお知らせ

「プライマリケアにおける皮膚科診療の Tips」

3月18日（木）14:00～15:00

皮膚科医長 広瀬晴奈 先生

ナビゲータ

診療局長兼皮膚科主任部長 片岡葉子 先生



* 詳細および申し込み方法は同封しておりますチラシをご参照ください。

リモート勉強会動画配信のお知らせ

当センターでは、今年度から地域医療機関の関係者様対象に、リモートでの勉強会開催に取り組んでおります。平日、日中での開催となるため、時間の都合で視聴できないというお声もいただいております。そこで、登録医になっていただいている医療機関様へ、今までに開催しました講演の動画を配信することにしました。同封しておりますご案内を参照のうえ、ご都合のよい時にご視聴いただけたらと思います。順次動画配信のご案内をさせていただきますので、登録医にならない先生方は、この機会に登録医申請もどうぞよろしく願いいたします。

リモート勉強会の様子

1月21日（木）14時より第60回羽曳野臨床懇話会が開催されました。

「最近の胃癌動向」について、院内3か所をオンラインでつないでの講演となり、24名の先生方にご参加いただきました。



【演者】

消化器外科主任部長
宮崎 知 先生



【座長】

地域医療連携室室長
川島 佳代子 先生



12月3日（木）、12月24日（木）小児科勉強会（Webセミナー）の様子



【12月3日開催】

小児科 釣永 雄希 先生
「気管支喘息における呼吸機能検査の重要性について」
～内科への移行期医療を念頭に～

【12月24日開催】
小児科 吉田 之範 先生
「小児喘息の長期管理について」
～当科の経験と新しいガイドラインより～



こちらは、登録医の先生方限定で動画視聴することができます。登録医の先生方は、ご案内をご参照の上ぜひご覧ください。

ぜひこの機会に登録医制度への申請をお願いいたします。

アレルギー内科 vol.2

主任部長 源 誠一郎

✚ 咳嗽入院を始めました

咳嗽は呼吸器疾患では一般的によくみられる代表的な症状です。診察の場では、気道感染症に伴う咳嗽をよく経験します。そのほとんどが、ウイルス感染による風邪症候群で、特別な治療なしで比較的短期間に治まります。



しかしながら、一向によくならない咳嗽もあり、慢性咳嗽（8週間以上続く咳嗽）と呼んでいます。このような難治性の咳嗽を引き起こす疾患群のほぼ半数が、咳喘息です。その他、慢性気管支炎、副鼻腔気管支症候群、アトピー咳嗽、後鼻漏による咳嗽などがあって、何らかの治療が必要になります。慢性咳嗽のなかでは、気道感染症の比率は少ないですが、マイコプラズマ感染症や百日咳も忘れてはいけません。さらに、肺結核や肺がんも放置すれば咳嗽が続きますので注意すべき疾患です。



当科では、喘息を中心に診療していることから、咳喘息を疑われて、多くの紹介があります。慢性咳嗽の鑑別には、咳嗽の出る場面や時間帯、湿性咳嗽か乾性咳嗽か、喫煙の有無、併存疾患や内服中の薬剤（ACE阻害剤など）、今まで行われて効果がなかった治療など、患者さんから多くの情報を得て診断しています。また、スパイロメトリーや呼気一酸化窒素濃度の測定、レントゲンなどの結果も、診断に直結する場合があります。

今回、診断の精度をあげるため、外来ではできない検査を、咳嗽入院として精査を行うことにしました。検査内容は、アストグラフを用いた気道過敏性検査と食道PHモニタリングです。これらの検査を主体に2泊3日の入院となります。アトピー性咳嗽と咳喘息の鑑別ができ、さらに、胃食道逆流による咳嗽を直接的に診断することができます。また、入院中に心因性咳嗽に関するアプローチもしたいと考えています。**咳嗽で困っている患者さんがいましたら、ぜひ、ご紹介くださいますようお願いいたします。**

✚ リウマチ診療が充実します

2021年4月から、新たに2人のリウマチ専門医が赴任することになりました。今までも、リウマチ性疾患や膠原病の診療は行ってきましたが、今後はより積極的に診療、精査を行えるように体制が整います。リウマチ性疾患や膠原病を疑われている患者さん、あるいは、病状が安定しない患者さんがいらっしゃれば、ご紹介ください。



万全の感染対策を行い、検査・手術に取り組んでいます。

お気軽に患者さんのご紹介をお願いいたします。



当院での消化器疾患に対して長年、消化器外科 3 名で対応しておりましたが、3 年前より消化器内科医 1 名の常勤医が赴任し、上部消化管内視鏡検査は毎日、下部消化管内視鏡検査も水曜日を除く毎日内視鏡専門医が施行しております。

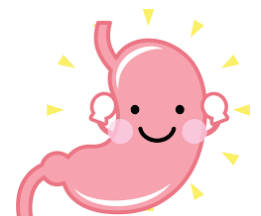
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
消化器外科	宮崎		西谷		酒田
消化器内科	岡崎	近藤	岡崎	加藤	岡崎
内視鏡 上部	○	○	○	○	○
内視鏡 下部	○	○		○	○
手術		手術		手術	手術

上部内視鏡検査数は 3 年前に比べ約 2 倍、下部内視鏡検査は約 3 倍に増加しました。しかし、昨年はコロナ禍のため、受診を控える患者さんが増えたため、内視鏡検査数も上部、下部内視鏡検査ともそれぞれ 100 例ほど減少しました。

実際、当科が所属する大学病院の関連施設の統計では一昨年に比し、胃癌手術は約 2 割減っている結果がでています。その影響か、今年になってから進行癌が増えてきたとの報告もあります。



少しでも気になる症状を訴えられる症例がございましたら、消化器内科も毎日午前の診療を行っておりますのでご相談ください。感染対策も専門の医療スタッフの指導の下万全を尽くしております。どうぞ、安心してご紹介いただきますようお願いいたします。



次回は引き続き消化器外科 (vol.2)、新たに泌尿器科を掲載させていただく予定です。



大阪はびきの医療センター 地域医療連携室

直通：072-957-8030 代表：072-957-2121

FAX：072-957-8051

地域連携室室長：川島 佳代子

マネージャー：秦 順子